

「世界人口は 2100 年までに 112 億人」

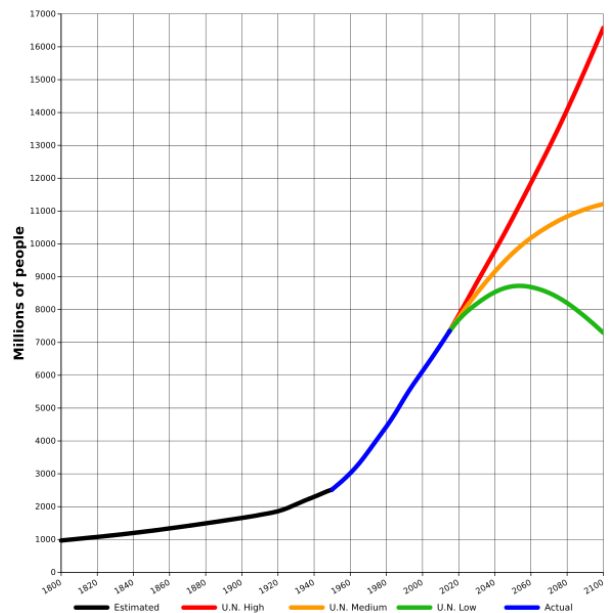
1. 将来人口推計の上方修正とその経緯

国連人口部による最も蓋然性が高いと考えられる中位推計を基に比較すると、非常に高い人口増加率が予測されていた 1970 年代には、2050 年に 112 億人、2100 年に 123 億人と予測されました¹。その後、人口プログラムの普及などもあり出生率の低下を反映し、予測は順調に低下を続け、2050 年人口で比較すると、1994 年推計では 98 億人、1998 年推計では 89 億人と低下しました。しかしその後、推計値は上昇に転じました。2050 年人口は、2010 年推計で 93 億人であったものが、2012 年推計では 95.5 億人、さらに 2015 年推計では 97.2 億人と、1998 年推計に比べ 17 年間で 8.2 億人も増加しています²。

さらに 2100 年人口で比較すると、2010 年推計では 101.3 億人であったものが、2015 年推計では 112.1 億人³と、わずか 5 年間でその推計値は 10.8 億人も増加しています。

2050 年まで 30 年ほどしかないと考えれば、17 年間で 8.2 億人、わずか 5 年で 4.2 億人も増加という、この予測の変化は深刻です。この主な理由は、出生率の低下がこれまでのように進まないことと、各国で平均余命の伸びが起きていることとされています。このわずか 40 年の間に将来推計が全く異なったものとなるほど、世界の人口の様相は大きく変化しました。

開発努力が大きく貢献したことの証拠がここにあります。明らかに出生率と死亡率が低下しましたが、人口規模の安定化という観点から言えば、死亡率の低下の方が先に進み、平均余命が伸び、世界人口が増大すると同時に、全体として高齢化が進んでいます。



¹岡崎陽一、安川正明、村松稔、国井長次郎、永木春雄、『新版 図説人口問題』,社団法人日本家族計画協会、新宿書房、1978年。United Nations, World Population Prospects 1973.

²別府志海・佐々井司,国連世界人口推計 2012年版の概要,国立社会保障・人口問題研究所,人口問題研究 (J.ofPopulationProblems) 71-3 (2015.9) pp.260~29.

³ <https://esa.un.org/unpd/wpp/Download/Standard/Population/>

この高齢化が進展するためには、栄養状態の改善、保健衛生の改善、医療の普及など、それを支える経済成長が不可欠で、その意味では、高齢化はこれまでの努力の大きな成果ということになりますが、この高齢化がもたらす諸問題への対応は、これから世界的な課題となることはよく知られていると思います。同時に地球の人口（人口規模）が拡大し豊かさも拡大すると、持続可能性に多く負荷をかけることになり、人口と持続可能な開発に取り組んだ当初の問題意識に改めて立ち戻る必要が出てきています。

国連人口推計に見る世界人口推計の変化 2050年と2100年

中位推計で比較

推計人口	人口(単位:億人)	
	2050年	2100年
1998年推計	89.0	-
2002年推計	89.2	-
2010年推計	93.0	101.3
2015年推計	97.2	112.1
2010年推計と2015年推計の差	4.2	10.8
1998年推計と2015年推計の差	8.2	-

出所:国連 World Population Prospect 各年次および別府志海・佐々井司,国連世界人口推計 2012年版の概要,国立社会保障・人口問題研究所,人口問題研究(J.ofPopulationProblems)71-3(2015.9)pp.260~29

<表は JFPF 事務局作成>

2. 人口と食料安全保障

特に、この人口増加が持続可能な開発に与える最も大きな脅威は、最も古典的な課題でもある食料安全保障の問題であると言えます。国際連合食糧農業機関（FAO）の推計によれば、世界人口に占める飢餓人口が1990～1992年に18.9%であったものが、2014～2016年には10.9%へと低下し、過去25年間で最低になったことを踏まえ、食料安全保障の達成可能性に関して楽観的な意見も表明され、食料に対する不安が意識されることは少なくなりました。しかし、人口の増加と豊かさの増大は、より大きな食料需要を生み出し、大きな環境負荷を与えます。そして耕地面積の拡大は過去50年間で12%しか増えていません。その意味では、単位当たりの収量増が需要の増加を賄ってきたと言えますが、気候変動などに対する脆弱性が高まっているという懸念があります。そして世界的に見ても、この問題について適切な解決策が示されているとは、今なお言えないのではないのでしょうか。



国際人口問題議員懇談会（JFPF）事務局

（公財）アジア人口・開発協会（APDA）

TEL: 03-5405-8844

FAX: 03-5405-8845

E-mail: apda@apda.jp

Website: <http://www.apda.jp>

JFPF 入会をご希望の方は、apda@apda.jp までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

尚、本ニュースレターの配信停止をご希望の方は apda@apda.jp までお願いいたします。